

## シートマルチでおいしいモモの安定生産

モモは収穫までの土壌水分の多寡により収量や品質が大きく影響される。高品質安定生産のため、降雨の影響を少なくする土壌表面のシートマルチやドリップ(点滴)かん水の効果を検討した。その結果、果実発育期～成熟期のシートマルチには、生理落果の減少や糖度向上等の効果があり、高品質安定生産に有効であった。

### 内 容

20年生「白鳳」を用い、シートマルチ(以下、「マルチ」)被覆区では、透湿性白色シートを幹中心に通路部を除く土壌表面(3畝×6畝、枝の広がり約8割)に5月18日～収穫期まで被覆し、雨水を排除した。マルチとドリップかん水を併用した(以下、「マルドリ」)区は、マルチ下の幹に沿ってドリップチューブを敷設し、5月18日～6月19日に雨量換算で4ミリ(4ト/10畝)かん水し、その後収穫まで無かん水とした。

試験年の降水量は、6月中旬までは比較的少なかったが、その後は増加し、特に収穫直前～始期の7月中下旬には数日で約120ミリの降雨があった。

新梢の2次伸長や徒長枝の発生は、無処理区と比べてマルドリ区やマルチ区で少なかった(データ略)。生理落果はいずれの区も7月上旬までほとんどなかったが、降水量が多くなった7月中旬以降急増した。生理落果率は無処理区の約27%に対して、マルドリ区及びマルチ区は約6ポイント低下した(図1)。また、収量(樹の大きさが異なるため、幹断面積で比較)は、マルドリ区がマルチ区や無処理区と比べて約15%多かった。果実重はマルチ区が約300gと最も重く、マルドリ区も無処理区より約

10%重かった(図2)。果汁の糖度はマルチ区が13.2と最も高く、次いでマルドリ区も12.6と無処理区より1以上高かった。これらは、マルチの被覆により雨水の吸収が減少し、その結果新梢伸長が抑制され、養分が果実に集中したためと考えられる。

以上のように、シートマルチは降雨による生理落果や糖度の低下を抑制し、収量や品質の安定に有効である。また、モモは土壌乾燥により渋味が増加することから、若齢樹や干ばつ時にはシートマルチとドリップかん水の併用が有効と考える。なお、10畝当たりの資材費はシートマルチが約9万円(被覆率80%、その他固定資材も必要)、ドリップかん水装置が約7万円(点滴チューブ等配管資材2万円、タイマー5万円)で、いずれも3年以上使用可能である。

### 普及上の注意事項

シートマルチで排除した雨水を速やかに排水するため、明きよ等の設置も必要である。

水田 泰徳(農産園芸部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-2424)

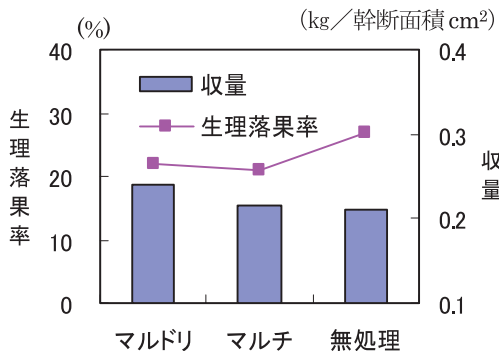


図1 生理落果率と収量

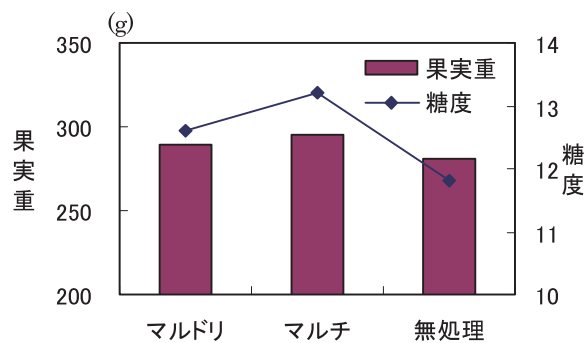


図2 果実量と糖度

枝葉の量と強く関係する幹部の断面積で、樹の大きさが異なる場合の収量比較に使用する。